

ブラベクト® BRAVECTO®

- ブラベクト®錠 112.5 mg
- ブラベクト®錠 250 mg
- ブラベクト®錠 500 mg
- ブラベクト®錠 1000 mg



ブラベクト錠の主剤であるフルララネルは、合成イソキサゾリン系化合物である。フルララネルはアミノ酪酸（GABA）作動性塩素イオンチャネルのアンタゴニストに分類され、節足動物のGABA作動性塩素イオンチャネルに作用し、塩素イオンの神経細胞流入を阻害する。その結果、抑制が効かなくなり、過度の興奮を起こすことでノミ及びマダニを死亡させる。

【成分及び分量】

販売名	有効成分（1錠中）
ブラベクト錠 112.5 mg	フルララネル 112.5 mg
ブラベクト錠 250 mg	フルララネル 250 mg
ブラベクト錠 500 mg	フルララネル 500 mg
ブラベクト錠 1000 mg	フルララネル 1000 mg

—— 効能又は効果 ——

犬に寄生するノミ及びマダニの駆除

—— 用法及び用量 ——

体重1kgあたりフルララネル25mgを基準量とし、体重別には下記のとおり犬に本剤を1錠経口投与（投与前後に少量の餌を与えること）又は混飼投与する。

なお、体重40kgを超える犬には、体重1kgあたりフルララネル25mgを基準量とし、錠剤を組み合わせ投与すること。

体重	投与量（錠数）			
	ブラベクト錠 112.5mg	ブラベクト錠 250mg	ブラベクト錠 500mg	ブラベクト錠 1000mg
2kg以上 4.5kgまで	1			
4.5kgを超え 10kgまで		1		
10kgを超え 20kgまで			1	
20kgを超え 40kgまで				1

—— 使用上の注意 ——

【一般的注意】

- (1) 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 本剤は獣医師の指導の下で使用すること。

【使用者に対する注意】

- (1) 誤って本剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- (2) 本剤を取り扱う時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- (3) 本剤の投与後は石けんで手をよく洗うこと。また、本剤は皮膚から吸収されるので、皮膚に付着した場合は直ちに水洗いすること。

【犬に対する注意】

1 制限事項

- (1) 本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。
- (2) 本剤は8週齢未満の子犬又は体重2kg未満の犬には投与しないこと。
- (3) フルララネル又は添加剤にアレルギーのある犬には投与しないこと。本剤には添加剤としてフレーバー（豚肝臓及び醸造酵母由来）、トウモロコシデンプン、パモ酸二ナトリウム水和物及びダイズ油などを含む。
- (4) 繁殖に用いる犬、妊娠中あるいは授乳中の犬に対しては、国内で実施した臨床試験の症例に含まれておらず安全性が確認されていないため、慎重に投与すること。

2 副作用

- (1) 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- (2) 本剤の投与により、ときに消化器症状（下痢、嘔吐、食欲不振又は流涎）がみられることがある。
- (3) 本剤投与により、一部の動物でAST、ALT等の増加が認められることがある。

3 相互作用

- (1) 本剤は血漿蛋白結合率が高い薬剤であり、蛋白結合率の高い他の薬剤と併用すると血漿中の蛋白との結合において競合し、本剤又は競合する薬剤の血漿中遊離型濃度が増加し、それぞれの薬剤の有効性又は安全性に影響するおそれがあるので、併用する際は十分に注意すること。なお、蛋白結合率の高い薬剤としては、非ステロイド系抗炎症剤、ループ利尿剤や炭酸脱水素酵素阻害剤、一部のACE阻害剤及び抗凝固剤等がある。

4 適用上の注意

- (1) 本剤は1回投与すると通常約3か月間新規のノミ及びマダニを駆除することができる。
- (2) 本剤を反復投与する場合は12週間に1回を超えないようにすること。ただし、本剤の投与後約3か月以内に体重がおよそ2倍となるような成長期の犬に反復投与する場合には、寄生リスクを考慮して8週間に1回を超えないようにすること。
- (3) 複数飼育の場合は、再寄生を最小限にするため、全頭投与することが望ましい。
- (4) 本剤投与後6時間以内に嘔吐して本剤を完全又は一部を排出した場合は、本剤を再投与すること。

【取扱以上の注意】

- (1) 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (2) 本剤は家庭排水、河川、湖沼、海等に廃棄しないこと。また、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- (3) 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。

【貯法】

室温保存

—— 使用期限 ——

個装箱及びラベルに表示

